

## 評価委員会総合評価

研究課題名：立山カルデラ新湯周辺の火山活動と水位変動に関する調査

評価委員

委員長：隈健一

委員：高薮出、大野木和敏、安田珠幾、小泉耕、堤之智、青梨和正、  
佐々木秀孝、鈴木修、橋本徹夫、山本哲也、石井雅男、丸本大介

評価年月日：平成 31 年 2 月 15 日

### 1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

### 2. 総合所見

本研究は、火山活動の現状把握、噴火による災害を防ぐための基礎資料となり得る研究課題である。

本研究により、現場観測や定点観測等による震動と水位の関係が明らかとなり、起源の考察や活動履歴の調査等、幅広い数多くの成果があった。少額の予算の中、現地での観測にも苦労があったと思われるが、間欠泉の定性的なイメージを明確にできたことは大いに評価できる。特に、研究期間を延長した2年目の研究において、目標の絞り込みを行ったことは適切であった。

また、現地官署による観測方法や解析方法の工夫や努力など、気象研究所からの助言のもと、適切に研究がすすめられており、人材育成にも有効であった

以上のことから、本研究は、概ね適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、当初想定した成果が得られた優れた研究であったと評価する。

なお、今後の研究成果の活用にあたっては、以下の指摘事項に留意して、取り組んで欲しい。

- ・火山研究にとってとりわけ観測的研究は重要である。地台において、本研究のような研究成果が得られることは、高いスキルを持つ地台職員がいるということである。今後も研究所からのサポートを続けてほしい。
- ・普段の業務では得られない多くの経験も財産となると思われる。火山活動の監視等に活用できる多くの知見が得られた。今後の火山研究、火山業務に活かしてほしい。